

**製品名: サイクリン D2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09591**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	42kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CCND2
別名	CCND2; G1/S-specific cyclin-D2
遺伝子 ID	894.0
SwissProt ID	P30279
免疫原	抗血清はヒト CCND2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 240-289

**背景**

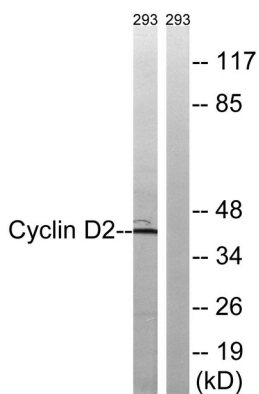
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通してタンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられる。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能する。異なるサイクリ

ンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与する。このサイクリンは CDK4 または CDK6 と複合体を形成し、その活性が細胞周期の G1/S 遷移に必要なとされる複合体の調節サブユニットとして機能する。このタンパク質は、腫瘍抑制タンパク質 Rb と相互作用し、そのリン酸化に関与することが示されている。相同遺伝子をマウスでノックアウトした研究では、この遺伝子が卵巣顆粒膜および生殖細胞の増殖に不可欠な役割を果たしていることが示唆されている。この遺伝子の高レベル発現は、卵巣腫瘍および精巣腫瘍で観察された。この遺伝子の変異は巨大脳症と関連している。機能: 細胞周期の G1/S (開始) 移行の制御に必須。類似性: サイクリンファミリーに属する。類似性: サイクリンファミリーに属する。サイクリン D サブファミリー。サブユニット: CDK4 および CDK6 タンパク質キナーゼと相互作用して、セリン / スレオニンキナーゼホロ酵素複合体を形成する。サイクリンサブユニットは、複合体に基質特異性を付与する。

## 研究分野

Cell\_Cycle\_G1S;Cell\_Cycle\_G2M\_DNA;p53;WNT;WNT-T CELL 焦点接着;Jak\_STAT;

## 画像データ



サイクリン D2 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。